

## 事業名 「わたしが楽しむとまちがよくなる」



### 1 実施団体

特定非営利活動法人子どもと文化のNPO 子ども劇場西多摩

### 2 担当課

市民活動推進課

### 3 実施時期

2022年11月3日(木) 14:00-16:00

2023年2月4日(土) 10:00-12:00

### 4 参加者

2022/11/3 55名+登壇者10名

2023/2/4 27名+登壇者6名

### 5 実施場所

青梅市役所2階会議室

### 6 事業の目的

この事業は、市内の様々なまちづくり・人づくりに関わる団体や個人が、それぞれの活動をもとに交流し、ネットワークをつくること、またお互いの活動からヒントを得てそれぞれの活動がさらに発展していくことを目的とする。

またこれから何かに関わりたいと考えている方が、市内の活動を知り関わりをもつきっかけの場を創出することを目的とする。

## 7 役割分担

・ 団体の役割 企画・運営・広報

・ 担当課の役割 広報・講座への参加・団体の情報提供や紹介

## 8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

今回の事業では、多くの市民が活動を知るきっかけとなるようにと、青梅市の中で様々なテーマで活動している9団体を紹介したところ、登壇者の「西多摩・子どもオペラによる街づくりの会」から登壇の方より、「自分は音楽という角度で青梅に関わってきたが、こんなにたくさんの方がまちをよくしようとして動いていることに大変感動した。こういう会があると勇気がもらえる。横のつながりが大切だと思った。」というお声を頂いた。今回の講座を通じて、市内の様々な活動が「見える化」でき、市民に知らせることができたと共に、市内で活動するもの同士も改めて知り合い、つながることができた会となった。

## 9 目標達成

**事業の目標：**2回の講座において、4つの活動を紹介し、合計8つの市内の団体・個人を紹介できることとする。また講座の参加者を40名を目標として、一人でも多くの市民が共に考えられる場を創出する。

**目標の達成具合：**11月の会で9団体、2月の会では一回目の団体の内3団体を再度とりあげた。8つの団体という目標を達成し9団体の紹介ができた。

講座の参加者人数としては、11/3の学習会は達成し、

2/4の会は達成することはできなかったが、

2回続けての参加者もあり、内容を深めることができた。

## 10 事業の実施内容

2022年11月3日

「わたしが楽しむとまちがよくなる～～市内の活動の魅力を知って、〇〇しよう～」市内9つの活動を紹介しながら、一人一人が「楽しむ」ことでどんなふうにもちがつけられているのかを感じられるシンポジウムの開催。これから何かしたいと考え

ている方が、市内の活動を知り関わりを持つきっかけの場を創出することを目的とし各団体 8 分程度発表、コーディネーターより質問などしながらテーマを深めた。

■登壇団体：ひまわりプール保存会/木野下田んぼを愛する会/ノルディックウォーキングクラブ青梅/あすくり青梅/ゆめなりき/おうめ若者カフェ/青梅市青少年対策青梅地区委員会/ままにこっと/西多摩・子どもオペラによる街づくりの会

■コーディネーター森本真也子氏（(特)子どもと文化全国フォーラム代表理事）

2023年2月4日

「わたしが「楽しむ」とまちがよくなる～わたしが楽しんだその先に～」

前回の参加団体より3つのご活動を再度ご紹介しながら、私が「楽しむ」ということをさらに分析していくことにより、どんな市民活動も最終的には【人や自然と共生する喜び・楽しみにつながっていること】、また私が楽しんだその先にあるものが、地域における共生社会の実現なのではないかということ、参加者の皆さんと共有できる会となった。

■登壇団体 木野下田んぼを愛する会/あすくり青梅/おうめ若者カフェ

■コーディネーター森本真也子氏（(特)子どもと文化全国フォーラム代表理事）

## 11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

## 12 まとめ（今後の課題や改善点など）

### ・団体側

今回の協働事業では、事前から内容も含めて担当課と話し合い、青梅市の市民活動の場において、今なにが必要なのかの課題共有から始まり、2回のシンポジウムを設定できたことは、協働事業に大変ふさわしい形態が取れたと考えられます。今後もこのような市民活動のネットワークがつくられる講座があったらよいという案が、事後のまとめ会の中で、担当課とも話題になり、今後につなげられるような形を模索したい。

### ・担当課側

2回のシンポジウムの開催を経て、団体同士の横のつながり・志ある人と団体のつながりが、市内における市民活動の活性化にとって重要なことの一つであることを実感した。また、各団体のアクションが活発であることと、まちに活気があることには大きな関係性があるとも感じた。まちづくり・ひとづくり団体のネットワーク構築に取り組んでいきたい。

## 13 その他